
【テキスト中に現れる記号について】

《 》：ルビ

(例) 映《うつ》つてゐる。

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定

(例) [# 地から 1 字上げ] (大正十四年稿)

黒馬に風景が映《うつ》つてゐる。

×

朝のパンを石竹《せきちく》の花と一しよに食はう。

×

この一群《ひとむれ》の天使たちは蓄音機《ちくおんき》のレコオドを翼にしてゐる。

×

町はづれに栗の木が一本。その下にインクがこぼれてゐる。

×

青い山をひつ搔《か》いて見給へ。石罅《せつけん》が幾つもころげ出すだらう。

×

英字新聞には黄瓜《かぼちや》を包め。

×

誰かあのホテルに蜂蜜を塗つてゐる。

×

M夫人 舌の上に蝶《てふ》が眠つてゐる。

×

Fさん 額《ひたひ》の毛が乞食《こじき》をしてゐる。

×

Oさん あの口髭《くちひげ》は駝鳥《だてう》の羽根だらう。

×

詩人S・Mの言葉 芒《すすき》の穂は毛皮だね。

×

或牧師の顔 臍《へそ》!

×

レエスやナプキンの中へずり落ちる道。

×

碓氷《うすひ》山上の月、 月にもかすかに苔《こけ》が生えてゐる。

×

H老夫人の死、 霧は仏蘭西《フランス》の幽霊に似てゐる。

×

馬蝇《うまばへ》は水星にも群《むらが》つて行つた。

×

ハムモツクを額に感じるうるささ。

×

雷《かみなり》は胡椒《こせう》よりも辛《から》い。

×

「巨人《きよじん》の椅子《いす》」と云う岩のある山、 瞬《またた》かない顔が一つ見える。

×

あの家は桃色の歯齦《はぐき》をしてゐる。

×

羊の肉には羊歯《しだ》の葉を添へ給へ。

×

さやうなら。手風琴《てふうきん》の町、さようなら、僕の抒情詩《ぢよじやうし》時代。
[# 地から 1 字上げ] (大正十四年稿)

底本：「芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971 (昭和46) 年6月5日初版第1刷発行
1971 (昭和46) 年10月5日初版第5刷発行

入力校正：j.utiyama

1999年2月15日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。